

循環器呼吸器病センターの機能移行について

平成21年10月9日
病院事業庁

1 背景・経緯

(1) 循環器呼吸器病センターの現状・課題

【現状】

循環器呼吸器病センターは、循環器医療と呼吸器医療の充実・強化を図るため、平成17年4月に現在の名称へ変更し、尾張西部医療圏を中心とする地域の心臓・血管疾患の基幹的病院として、その役割を担ってきたところである。〔病床数286床（一般236床 結核50床）〕

しかしながら、医師について、循環器部門は17人で何とか配置できているが、消化器部門、整形外科部門は0人、呼吸器部門で1人、歯科部門で1人となっており、最近の勤務医不足の影響を受け、循環器系以外の診療科の医師がほとんど確保できていない。

【課題】

このように循環器系以外の診療科の医師の確保が困難になってきたことから、循環器部門においても、合併症や他の持病を持つ患者の治療が十分にできていないばかりか、病院全体で患者数も大きく減少し、その保有する高度な医療機能を十分に発揮することができず、尾張西部医療圏においてその役割を果たすことが難しい状況となってきている。

(2) 「公立病院等地域医療連携のための有識者会議」(20年12月22日開催)からの提言

一宮市立市民病院は、「心筋梗塞」における医療機能の充実が求められており、また、地域住民に対して、合併症治療におけるより質の高い医療提供を行うため、循環器呼吸器病センターとの統合も視野に入れつつ、連携強化を図っていく必要がある。

一宮市立市民病院の状況

改築に合わせて、救命救急センター（第三次救急）を整備することとしているが、それにあたって不可欠な診療科の1つである心臓外科が設置されていない。

また、呼吸器科においては、主に一般の呼吸器系疾患のみを担当しているだけである。

大学医局の意向

尾張西部医療圏の救急医療のあり方については、重大な関心を持っているが、循環器系の医師を循環器呼吸器病センターと一宮市立市民病院の両方に送るだけの余裕はないため、最もよい方向性を両者で十分に考えていただきたい。

2 循環器呼吸器病センターの一宮市立市民病院への機能移行

(1) 循環器部門の機能移行

循環器呼吸器病センターは、このままでは尾張西部医療圏においてその循環器医療の役割を果たすことができなくなる恐れがある。

循環器呼吸器病センターが実施してきた手術や心臓カテーテル等件数を維持しつつ、循環器呼吸器病センターでは不十分であった合併症や他の持病を持つ患者の治療にも確実に対応できるようにするため、循環器部門の機能を総合病院へ移行させることが望ましい。



有識者会議からの提言を受け止め、実務的な検討や大学当局との調整を行ってきたが、それらを踏まえ、循環器呼吸器病センターの循環器医療の機能を一宮市立市民病院へ移行することとする。

機能移行にあたっては、現行の医療水準を確保するため、循環器呼吸器病センターの医師だけでなく、看護師、臨床工学技士等のスタッフの移行が必要となる。

- ・ 一宮市立市民病院においては、心臓外科機能が確保され、救命救急センター（第三次救急）の体制が整備できるとともに、循環器呼吸器病センターの循環器医療機能を引き継ぎ、総合病院としての総合力が発揮できる。
- ・ 循環器呼吸器病センターが担ってきた心臓カテーテル検査など循環器内科の診療については、総て一宮市立市民病院で対応するのではなく、稲沢市民にとってより近い病院で受けられるよう、大学医局から支援を受けて、稲沢市民病院においても実施する体制を整える。

(2) 結核部門の機能移行

循環器呼吸器病センターから循環器部門がなくなれば、病院としての実質的な機能は失われるので、同センターの結核部門についても、移行を検討する必要がある。

循環器呼吸器病センターでは、十分にできなかった肺がん治療や基礎疾患のある結核患者の治療に対応できるようにするため、結核部門も総合病院へ引き継ぐことが望ましい。



結核部門についても、一宮市立市民病院へ移行し、大学の支援を得て、肺がん、結核、一般疾患の3分野を担当する体制を整える方向で対応する。

(3) 機能移行の時期

一宮市立市民病院の改築工事が概ね完了する平成22年4月から秋を移行準備期間と位置づけ、同病院へ機能移行を円滑に行うこととする。